

第 10 回 ヒューマニティ関連教科担当教員会議 議事録

テーマ: ヒューマニティを学ぶ意義を改めて考える

日時: 平成 28 年 3 月 27 日(日)12:00~13:00

場所: 日本薬学会第 136 年会 T 会場(パシフィコ横浜会議センター 4F 419)

出席者: 80 名(世話人含む)

配布物: プログラム、出席者名簿、第 3 回医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ 配付資料(資料 1)、第 3 回教科担当教員中央会議 議事録(抜粋)(資料 2)、ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議 世話人会議 議事メモ(資料 3)、2016 年 3 月ヒューマニティ関連教科担当教員会議 アンケート集計結果(資料 4)、ヒューマニティ関連教科担当教員会議(ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議)開催実績と世話人(資料 5)

司会: 大嶋耐之(金城学院大)

1. 報告事項:

1-1 開会

世話人より、会議の趣旨、会議の流れが説明された。

1-2 日本薬学会「医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」報告(資料 1)

日本薬学会薬学教育委員会が主催し、H27 年 1 月 26 日に慶應義塾大学薬学部で開催された「第3回医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」について、実行委員である世話人(野呂瀬崇彦(北薬大))より報告された。今回のワークショップは、患者中心の視点を薬剤師養成教育に活かすことを目指し、実務実習事前学習を担当する教員が各大学より参加した。第一部では「ナラティブが服薬支援にどのような意味をもつかを体験する」ための PBL、模擬患者へのインタビューなどにより、患者のナラティブの服薬支援への影響について 3 つのチームに分かれて討論した。この結果を踏まえて、第二部では薬学臨床におけるカリキュラム構築を体験するグループワークにより、新しい授業を導入する際の課題、解決策を考えたことが報告された。(資料 1)

※報告書公開 URL: 日本薬学会 薬学教育会 (<http://www.pharm.or.jp/kyoiku/>)

1-3 薬学教育協議会 教科担当教員中央会議報告(資料 2)

平成 27 年 11 月 16 日に開催された中央会議の趣旨と議事録抜粋について、世話人(石川さと子(慶應大))より報告された。

1-4 世話人打ち合わせ会報告(資料 3)

昨年度の担当教員会議での意見、指摘事項を踏まえて 4 月に開催した打ち合わせ会について、世話人(小澤孝一郎(広島大))より報告された。改訂コアカリの導入により、本会議の取り扱う範囲が広がり、ヒューマニティ・コミュニケーションだけでは担当教員にもわかりづらいことから、平成 27 年度より「ヒューマニティ関連教科担当教員会議」に改称した。また、定例会議の時期や内容、世話人制についても議論を行い、今回の会議前に担当教員へのアンケートで結果を取りまとめることにした。

1-5 アンケート結果報告(資料 4)

資料 4 に基づき、担当教員を対象として事前に行ったアンケートの結果について、世話人(村山恵子(第一薬科大))より説明された。回答は 63 校 72 名から得られた。今回のアンケートでは、これまで継続してきた授業に関する内容ではなく、本教員会議のあり方に関する内容とした。開催日程としては、薬学会会期中を希望する教員が最も多かったが、前日に時間をとって情報共有することへの希望も少なからずあった。また、世話人は 4~5 名が半

数ずつ定期的に入れ替えることが望ましく、その期間は概ね 2～3 年が最多数の回答であった。本教員会議の担当範囲の性格上、担当教員の入替えがあったり、担当教員の専門分野が多岐にわたることから、様々な意見が出されたことが紹介された。

2. 事例紹介:

以下の大学より、改訂コアカリへの対応も含めた取り組み事例が紹介された。

九州保健福祉大学(高村徳人):ADME 患者人形を活用した授業について

慶應義塾大学(横田恵理子、石川さと子):生命倫理の授業、卒論開始前の研究倫理演習について

大阪大谷大学(廣谷芳彦):全教員による医療倫理学演習の取組みについて

星薬科大学(町田昌明)、北里大学(有田悦子):実務実習生が病院で出会うモラルジレンマを DVD 教材にした講義、日常診療と臨床研究の違いをテーマとした SGD とロールプレイについて

昭和大学(木内祐二):患者のナラティブに基づく医療(NBM)を学ぶ学部連携カリキュラムについて

東京理科大学(後藤恵子):異文化体験を取り入れたコミュニケーションの授業について

3. 協議事項:

3-1 次年度以降の会議開催日程と開催場所について(資料 5)

アンケートの結果およびこれまでの会議内容をまとめた資料 5 を踏まえて、今後の方向性について世話人(木内祐二(昭和大))から提案が出された。協議の結果、できるだけ多くの教員が参加できるように薬学会の会期中に情報共有・事例報告の場を設けるとともに、数年に一度は別の日程で 3～4 時間かける参加型のワークショップを開催する方向で活動していくこととした。

3-2 世話人の交代、選出について

世話人(大嶋)より、本会議創設からの世話人一覧が紹介された。これまでのアンケートからも、世話人のある程度の固定は必要であるが、数年ごとに交代することが望ましいという意見がでていることから、創設当初からの世話人である 2 名(木内、小澤)と、新たな 3 名との交代が提案された。出席者からの立候補はなく、現世話人からの推薦により、関東、中国・四国、および近畿地区の 3 名へ就任が要請され、本人の承諾を得た。これにより、平成 28 年度は下記 7 名の世話人で、本教員会議の活動を運営していくこととした。なお、中央会議の委員である石川が平成 28 年度も継続して委員長を務めることが提案され、出席者の賛同が得られた。

北海道・東北 野呂瀬崇彦 (北海道薬科大学)

東京・関東 石川さと子 (慶應義塾大学) (委員長)

東京・関東 吉永真理 (昭和薬科大学) 新 (←木内祐二)

中部 大嶋耐之 (金城学院大学)

近畿 廣谷芳彦 (大阪大谷大学) 新

中国・四国 石田志朗 (徳島文理大学) 新(←小澤孝一郎)

九州 村山恵子 (第一薬科大学)

最後に世話人(木内)より、ループリック評価表の共有に関する検討状況が報告され、閉会となった。

以上